



## 【東京都】杏林大学医学部附属病院

杏林大学は東京23区と23区外のちょうど境目である三鷹市新川に位置しています。近くには井の頭公園など豊かな自然がありながら都心部へのアクセスも良く、吉祥寺の繁華街や宮崎駿監督の三鷹ジブリの森などがあります。東東京には複数の大学病院本院をはじめ、多数の大規模病院が存在しますが、西東京に存在する唯一の大学病院本院として、その地域はもちろん、都内全域から患者さんが訪れます。そのため大学病院でありながら、地域の拠点病院としての顔も併せ持ち、非常に多くの幅広い疾患を経験することが可能です。ロボット支援手術もいち早く導入し、最先端の医療技術や知見を経験しながら、早くから臨床に強い一人前の泌尿器科医を育成できる環境です。



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
外来患者数 (初診)	2,956	2,617	2,463	1,892	2,263
新規入院 患者数	1,688	1,631	1,590	1,452	1,654

### 杏林大学医学部泌尿器科学教室について

杏林大学病院は大学病院としては診療科間の垣根も低く、医局内に学閥などは存在しません。泌尿器科学教室では、以前より様々な出身大学の先生が入局しています(杏林大、東京大、山梨医大、奈良医大、群馬大、東京医大、順天堂大、川崎医大、琉球大、埼玉医大、秋田大学、島根医大など)。現在、大学病院内では常勤医局員12名がスタッフとして勤務しており、ロボット支援手術は前立腺全摘術、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術、仙骨腫固定術、そして2022年度からは新たに腎摘除術、尿管全摘術、副腎摘除術を導入しており、現在保険適応である



#### ロボット支援手術 (2022年末まで)

ロボット支援前立腺全摘除術	827例
ロボット支援腎部分切除術	245例
ロボット支援膀胱全摘術	116例
ロボット支援腎盂形成術	13例
ロボット支援仙骨腫固定術	32例

すべての術式に対応しております。年間手術総件数は約1400件前後(生検、ESWL含む)であり、中でも膀胱全摘は直近40件/年前後と都内でも有数の件数を誇っており、結石手術ではPNL30件、ECIRS 5件と難症例を多く扱っています。若手世代から幅広く多種多様な手術を経験でき

る事が当教室の最大の特徴です。

研究面では本年度より福原浩主任教授の下、前立腺癌に対する新たな治療法の開発を目的とする、ウイルス療法の臨床試験を開始しました。これは癌治療において免疫治療に次ぐ新たな癌薬物療法のブレイクスルーになる可能性を秘めた治療法として、国内外から非常に注目されています。

### 杏林大学泌尿器科専門研修プログラムについて

杏林大学泌尿器科専門研修プログラムは、基幹病院である杏林大学を含め合計17の連携施設があり、このうちの14施設は都内に位置し、12施設でロボット支援手術を導入しております。募集定員は5名で、4年間の専門研修のうち1~2年を杏林大学病院で研修することを原則としています。当教室の特徴でもある、一人一人の個性やニーズに合わせた研修環境を提供することで、専門医取得まで丁寧で面倒見の良い指導を行っております。また、当教室は教育熱心な指導医が多く、医学部学生を交えたロボット操作体験実習も積極的に行い、Best teaching department賞を受賞しております。環境面においても、給与面で外勤での収入も含めた十分なサポートを行っております。また、杏林大学病院では女医復帰支援枠という、妊娠・出産・育児などでキャリアを中断する女性医師向けの支援制度も充実しています。

また、当教室は教育熱心な指導医が多く、医学部学生を交えたロボット操作体験実習も積極的に行い、Best teaching department賞を受賞しております。環境面においても、給与面で外勤での収入も含めた十分なサポートを行っております。また、杏林大学病院では女医復帰支援枠という、妊娠・出産・育児などでキャリアを中断する女性医師向けの支援制度も充実しています。

### 連携施設

JCHO 東京新宿メディカルセンター、JCHO 東京山手メディカルセンター、河北総合病院、災害医療センター、東京西徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、国立国際医療研究センター、三井記念病院、同愛記念病院、東京警察病院、日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、都立多摩総合医療センター、青梅市立総合病院、名戸ヶ谷病院

